



前神奈川県議会議員

き さ き
木佐木 ただまさ
日本共産党

いのちとくらし
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会 会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

政治的表現は「表現の自由」に含まれない!? 黒岩知事の発言に共産党県議団抗議

黒岩知事は8月27日の定例会見で、「あいちトリエンナーレ 2019」で中止に追い込まれた企画展「表現の不自由展・その後」について、「あれは表現の自由ではなく、極めて明確な政治的メッセージ」「もし同じことが神奈川県であったなら私は(開催を)認めない」と発言したことが報道されました。

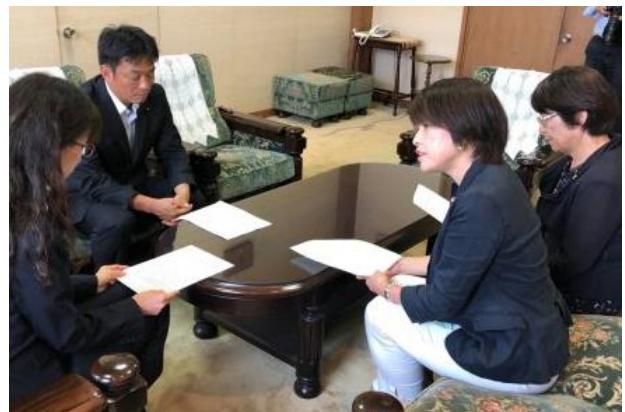
さらに知事は、日本軍「慰安婦」を象徴する「平和の少女像」は、「事実を歪曲したような形での政治的なメッセージ」、そして「慰安婦」の強制的な連行は韓国の一方向的な見解だとする発言を行いました。

表現の自由の否定 事実のねじ曲げ

知事の発言は、①憲法の表現の自由を否定する点、②歴史の事実をねじ曲げるといふ点で重大です。

①の点では、憲法第21条の「表現の自由」は戦前の反省に立って制定されたものであり、芸術・文化の「表現の自由」は広く認められなくてはならず、多様な表現の機会を保障することこそ自治体や国の責務です。芸術・文化への公的助成について、その内容に知事や政治家が踏み込むことがあってはなりません。知事の発言は、自分と立場と異なる発言は表現の自由の対象から外し規制するというものであり、民主主義とは対極にあるものです。

②の点について、知事が「事実を歪曲したようなもの」と述べた「平和の少女像」が象徴している日本軍「慰安婦」制度は、当時の日本政府と軍による「性的奴隷制」であり、日本が、真摯に向き合い、誤りを認め、清算すべき歴史の事実です。1993年の



申し入れする党県議団

河野洋平官房長官談話でも、政府見解として「慰安婦」問題で「軍の関与と強制」を認め、「おわびと反省」を表明しています。この点で、知事の認識は、事実誤認と言うべきものです。

発言の負の影響 はかり知れない

定例会見での知事の一連の発言は「表現の不自由展」の開催に関する仮定の話であったとしても、自治体の首長が発言することによって行政の事務に影響を及ぼす可能性があり、芸術分野での表現や政治的発言を自由に行うことへの萎縮効果を生みだしかねません。以上の点から党県議団は、知事の発言に抗議し、発言を撤回するよう求めました。

カジノ誘致も応援!?!…ダメすぎる

これに加え、横浜のカジノ誘致についても横浜が手を挙げるなら応援するという姿勢を示しています。林市長が、市民の声を聞かずに「白紙」から誘致推進に舵を切ったことへの批判が高まるなか、とんでもない発言です!ダメすぎます。